


統計リテラシー No.6

生存曲線・カプランマイヤー法を読む


—— 時間と生存率の関係をグラフで理解する

 **今日のゴール：** 医学論文に頻出する「カプランマイヤー曲線」を正確に読み取れるようになる。「打ち切り (censoring)」の意味・生存率の計算方法・ログランク検定・ハザード比 (HR) の解釈を理解し、生存分析の結果を自分の言葉で説明できる。

 この授業の問い

1. 「5年生存率80%」とは何を意味するか？どうやって計算するのか？
2. 「打ち切り (censoring)」とは何か？なぜカプランマイヤー法で必要なのか？
3. ハザード比 (HR) = 0.6 とはどういう意味か？RR とどう違うのか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 前回 (No.5) との接続

前は「研究結果を疑う目 (バイアスと交絡)」を学んだ。今回は RCT の結果が実際に論文でどう表現されるかを学ぶ。

生存分析は、がん治療・心血管疾患・感染症など、「**イベントが起きるまでの時間**」を扱う研究に欠かせない手法。論文の Figure として最も頻繁に登場する図形がカプランマイヤー曲線だ。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 生存曲線・カプランマイヤー法の問題で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

生存曲線・カプランマイヤー法の問題では、カプランマイヤー推定の根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

② 生存曲線・カプランマイヤー法の問題で採点者が見ているポイント

「打ち切りデータを適切に扱うためのカプランマイヤー法」と適用理由を示した答案が高評価

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所